

ブナオ山観察舎における大中型哺乳類の観察記録

小 谷 直 樹 石川県白山自然保護センター
谷 野 一 道 石川県白山自然保護センター
南 出 洋 石川県白山自然保護センター
甲 部 芳 彦 石川県白山自然保護センター

Records of the mammals observed at the slope of Mt. Bunaoyama, Ishikawa Prefecture

Naoki KODANI, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*
Kazumichi TANINO, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*
Hiroshi MINAMIDE, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*
Yoshihiko KOBE, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

はじめに

ブナオ山観察舎（以下、観察舎と呼ぶ）は、白山一里野温泉スキー場の東側に位置する野生動物観察施設である。観察舎は11月下旬から翌年の5月初旬（年により5月中・下旬）にかけて開館しており、その間は双眼鏡や望遠鏡を用いて、尾添川対岸のブナオ山（標高1365m）に生息する野生動物を観察することができる。今回は、観察舎職員が1981年より行ってきた大中型哺乳類の観察の記録について報告する。

なお、報告にあたって、観察舎元職員として観察に携わった殊才 実氏、下家智見氏、田中 稔氏、関 幸良氏、加波憲次氏、松崎紀子氏、山下和樹氏に深謝する。

方 法

観察舎職員が双眼鏡及び望遠鏡を使って、随時ブナオ山南斜面で活動する哺乳類の発見に努めた。哺乳類を確認した場合は、日時、場所、種名及び頭数を記入した。また、1日に同種が複数回観察された場合は、観察された場所によって同一個体か否かを判断した。観察は1981年12月8日から2017年5月7日の間で、観察舎開館日の10時から16時までのおおむね6時間実施し、観察者の人数は1～2名である。

吹雪や霧で視界が悪く、哺乳類の活動が終日確認

できなかった日数を除いた観察日数を開館期間ごとに集計し、これを用いて各哺乳類種における日あたり観察頭数を算出した。なお、今回の観察日数の合計は5520日であり、そのうち、終日視界が悪く哺乳類の活動が確認できなかった日は100日あった。

結果と考察

今回の観察を通して確認された哺乳類は11種類であった（表1）。石川県哺乳類研究会（1999）では、53種の陸棲哺乳類がリストアップされている。今回の記録はそれらの2割程度であったが、大型哺乳類（ツキノワグマ、イノシシ、ニホンジカ及びカモシカ）については、リストアップされていた種のすべてが記録された。これらの中でニホンジカは、加賀地域において低密度に分布していると考えられているが（江崎ら、2013；石川県、2017a；小谷ら、2017）、今回はオスジカ（雌雄判別は角の有無の観察による）が2012-13年から断続的に観察されており、ブナオ山周辺にも分布を拡げ始めているものと考えられる。

今回確認された種のうち、もっとも観察日数が多かったのはカモシカの5173日（全観察日数の96%）であった（図1）。次に多かったのがニホンザルの3740日（69%）で、これにイノシシ（528日、10%）、ツキノワグマ（362日、7%）、そしてキツネ（121日、2%）を加えた5種が観察日数上位種であっ

表1 プナオ山観察舎で観察された哺乳類種

ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>
タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>
キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>
テン	<i>Martes melampus</i>
アナグマ	<i>Meles meles</i>
ツキノワグマ	<i>Ursus japonicus</i>
ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>
ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>
イノシシ	<i>Sus scrofa</i>
ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>
カモシカ	<i>Capricornis crispus</i>

た。イノシシやツキノワグマは里山林では夜間に活動が活発になり、人間の活動時間帯を避けて活動するなど環境によって行動時間を変えることが知られている（山田・上馬，2008；有本ら，2015；小谷ら，2016）。しかしながら、今回は日中に活動している姿が確認されており、観察舎の人間の気配による影響を受けていないことが考えられる。

観察日数上位5種における日あたり観察頭数の年変化を示した（図2）。カモシカの日あたり観察頭数は、1995-96年をピークに減少傾向がみられ、2016-17年の日あたり観察頭数は1995-96年の2割程度となっている。高標高地域を含んだ白山カモシカ保護地域におけるカモシカの生息密度は減少傾向がみられている（富山県教育委員会ほか，2016）。一方では、保護地域外の低標高地に分布を拡大し（上馬・野崎，2003）、能登地域の一部においても生息が確認されている（上馬・野崎，2003；小谷ら，2016）。これらのことから、観察対象地域周辺に生息している個体が徐々に低標高地へ流出していることが影響したと考えられる。

ニホンザルの日あたり観察頭数は、1989-90～1997-98年など一部の年間で大きく増減することがあるものの、全体としては横ばいである。観察対象地域周辺にはタイコB2-1群、2-2群及びカムリエ群が生息しており（石川県，2017b）、これらの群れが遊動して観察対象地域に出現していることが考えられる。

イノシシの日あたり観察頭数は、2007-08年から2014-15年まで増加傾向であったが、2015-16年及び2016-17年は約1頭/日となっている。イノシシは石川県内では昭和初期までに絶滅したとされており（北國新聞社，1973）、1990年代までは捕獲の記録はほとんどなかった（石川県，2017c）。しかしながら、2000年代に入り加賀地域において捕獲数が増え始

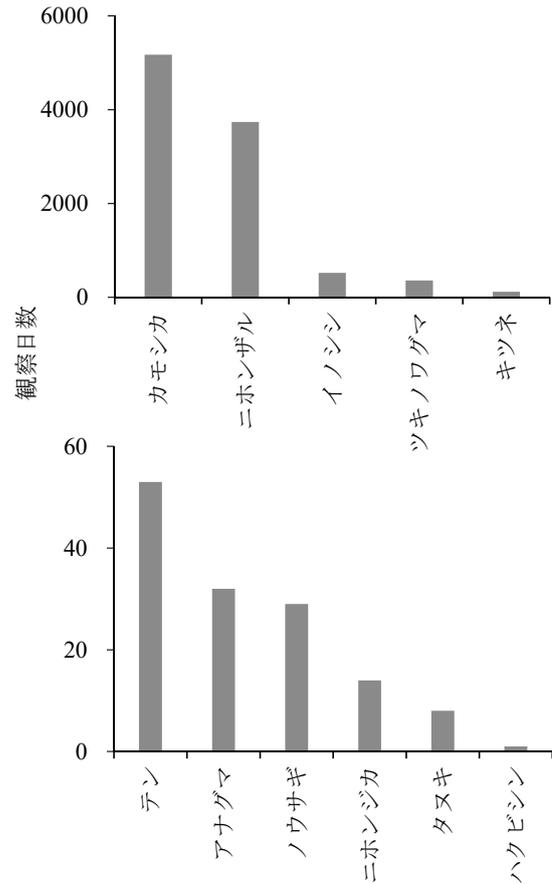


図1 種ごとの観察日数

め、2002年には白山麓においても捕獲されるようになった（野崎・林，2003）。これらのことから、石川県内におけるイノシシが低密度に分布していた段階から、観察対象地域周辺をイノシシが利用し始め、その後定着したことが考えられる。

ツキノワグマは2006-07年より日あたり観察頭数が著しく増加傾向にある。プナオ山地域一帯は2000年に鳥獣保護区に指定され、狩猟が禁止された。これにより、観察対象地域周辺におけるツキノワグマの生息密度が増大したことが、日あたり観察頭数の増加に影響したものと考えられる。

キツネは、日あたり観察頭数が0.1頭/日未満で推移している。石川県哺乳類研究会（1999）によれば、石川県内におけるキツネの生息数は1940年代から1950年代に急減したが、その後回復し、平野部を除いてほぼ県下全域に生息している。今回は観察対象地域を利用する個体が確認されたが、日あたり観察頭数から、観察対象地域周辺の生息密度は著しく小さいことが考えられる。

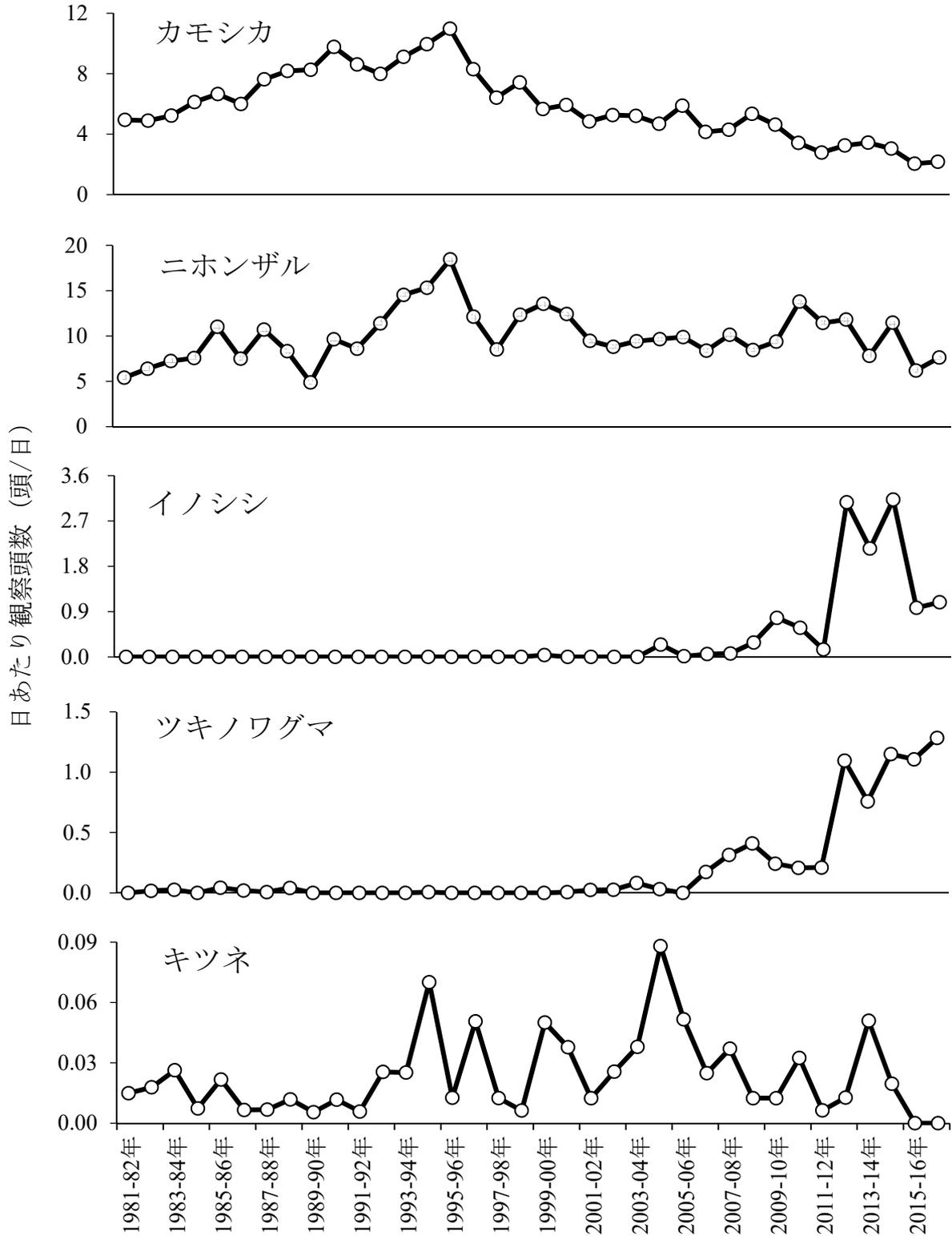


図2 日あたり観察頭数の年変化

引用文献

有本 勲・野崎亮次・江崎功二郎 (2015) 里山林に設置した自動撮影カメラによるツキノワグマの出現季節及び時間分布. 石川県白山自然保護センター研究報告41: 24-28.
 江崎功二郎・有本 勲・平松新一・野崎亮次・八神徳彦 (2013)

ニホンジカ低密度分布地域における糞塊密度と樹木被害出現頻度の関係. 石川県白山自然保護センター研究報告 40: 29-33.
 北國新聞社 (1973) のと・かが季節の野生. 北國新聞社, 金沢, 447pp.

- 石川県 (2017a) 第 1 期石川県ニホンジカ管理計画 (変更). 石川県, 金沢, 28pp.
- 石川県 (2017b) 第 2 期石川県ニホンザル管理計画. 石川県, 金沢, 23pp.
- 石川県 (2017c) 第 2 期石川県イノシシ管理計画. 石川県, 金沢, 23pp。
- 石川県哺乳類研究会 (1999) 石川県の哺乳類. 石川県, 金沢, 142pp.
- 小谷直樹・有本 勲・野崎亮次・江崎功二郎 (2016) 自動撮影カメラで確認された七尾市及び中能登町里山林の哺乳類相. 石川県白山自然保護センター研究報告42: 43-49.
- 小谷直樹・野崎亮次・小倉光貴・江崎功二郎 (2017) 自動撮影カメラで確認された加賀地域におけるニホンジカの生息状況. 石川県白山自然保護センター研究報告43: 37-39.
- 野崎英吉・林 哲 (2003) 石川県におけるイノシシの捕獲状況について. 石川県白山自然保護センター研究報告30: 49-52.
- 富山県教育委員会・石川県教育委員会・福井県教育委員会・岐阜県教育委員会 (2016) 白山カモシカ保護地域特別調査報告書. 129pp. 富山県・石川県・福井県・岐阜県.
- 上馬康生・野崎英吉 (2003) 石川県におけるニホンカモシカの分布域—低標高地および能登地域への分布拡大—. 石川県白山自然保護センター研究報告30: 37-41.
- 山田孝樹・上馬康生 (2008) 白山地域のツキノワグマ (*Ursus thibetanus japonicus*) の日周行動と季節的行動様式の変化. 石川県白山自然保護センター研究報告35: 35-46.